

◎書籍頒布について 会員および、その他ご希望の方に頒布致しますので代金を添えて学会事務局までお申し込み下さい。

- (1) **山田幸男先生追悼号** 本学会では昨年8月に故山田幸男先生の追悼号を刊行致しました。この事業は、追悼号刊行実行委員会の手で進められ、その経費はすべて各界各位の寄附金によって充当されました。A5版 i~xxviii, 1~418頁, 山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文および内外の藻類学者より寄稿された論文50編(英文26, 和文24)が掲載されています。価格, 国内5500円, 国外6000円(含送料)。
- (2) **北海道周辺のコンブ類と最近の増・養殖学的研究** 昭和49年9月3日札幌で行われた日本植物学会の折, 日本藻類学会主催で「コンブに関する講演会」が開かれましたが, そのときの記録が刊行されたものです。B5版, 65頁, 発表論文4件の研究報告と討論の要旨が掲載されています。価格, 700円(含送料)
- (3) **Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific (I.A. Abbott & M. Kurogi ed.)** 昭和46年8月に札幌で開かれた北大平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録です。B5版, i~xiv, 1~280頁, 16図版, 20編の研究報告を掲載。価格, 国内3000円, 国外4000円(含送料)。

昭和53年度役員

会 長 西澤一俊
総務幹事 山岸高旺
庶務幹事 古谷庫造
会計幹事 岡崎恵視

編集委員会

委員長 小林 弘
委 員 秋山 優・新崎盛敏・今堀宏三・
黒木宗尚・館脇正和・千原光雄・
広瀬弘幸
幹 事 市村輝宜・大島海一

Officers for 1978

President: Kazutosi NISIZAWA
Secretary general: Takaaki YAMAGISHI
Secretary: Kurazo FURUYA
Treasurer: Megumi OKAZAKI

Editorial Board

Hiromu KOBAYASI (Tokyo) *Editor in Chief*
Masaru AKIYAMA (Shimane) Seibin ARASAKI (Tokyo)
Mitsuo CHIHARA (Tsukuba) Hiroyuki HIROSE (Kobe)
Kozo IMAHORI (Osaka) Munenao KUROGI (Sapporo)
Masakazu TATEWAKI (Muroran)
Secretaries: Terunobu ICHIMURA, Kaiichi OOSHIMA

学会に関する通信は、(〒184) 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学生物学教室内 日本藻類学会幹事宛とし、幹事の個人名は使用しないで下さい。

Manuscripts and other correspondences should be addressed to the Japanese Society of Phycology, c/o Department of Botany, Tokyo Gakuzei University, Koganei, Tokyo, 184 Japan

昭和53年6月20日 印刷
昭和53年6月25日 発行

編集兼発行者

小 林 弘

〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学生物学教室内

印刷所

学術図書印刷株式会社
東京都練馬区豊玉北2-13

発行所

日本藻類学会

〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学生物学教室内
東京 振替 6-41999

禁 転 載
不 許 複 製

藻 類

目 次

| |
|---|
| 山田剛通・猪川倫好・西沢一俊：オオハネモ (<i>Bryopsis maxima</i>) の RuDP カルボキシラーゼの部 分精製とその二・三の性質 …………… (英文) 49 |
| 鯉坂哲朗・梅崎 勇：培養によるイシモズク (褐藻類ナガマツモ目) の生活史の研究 …… (英文) 53 |
| 渡辺 信：クロロサルシナ目の 1 新種 <i>Planophila communis</i> …………… (英文) 61 |
| 三上日出夫：ニュージーランドの <i>Laingia hookeri</i> (紅藻, コノハノリ科) について …………… 65 |
| 野呂忠秀：海産緑藻 <i>Dunaliella tertiolecta</i> の生育に及ぼす Mn の影響 …………… 69 |
| 総 説 |
| 西澤一俊：薬剤としてみた海藻 …………… 73 |
| ノ ー ト |
| 津村孝平：珪藻混種プレパラートの指示標識 …………… 59 |
| 後藤敏一：珪藻植生の研究に際しての生細胞と死細胞を判定する方法 …………… 68 |
| 吉田忠生：クルゼンシュテルン提督の航海とホンダワラ類研究の発達 …………… 89 |
| 学会録事 …………… 93 |

評議員会並に編集委員会の議をへて、26巻1号から雑誌の体裁とその英文名を“The Japanese Journal of Phycology”に変更しました。しかし、巻次は継続します。
